

令和元年10月1日

# 甲府 旧友会だより

## 第25号

(甲府テレビ放送開局60周年記念号)

発行 NHK甲府旧友会

### 目次

		ページ
◇ オリンピック放送雑感	会長 萩原 幸造	1
◇ 特別寄稿	局長 辻村 和人	2
◇ 甲府テレビ開局60周年特集		3～15
◇ 会員短信	会員	16～23
◇ 甲府旧友会の動き		24
◇ 甲府放送局の人事往来		25～26
◇ 「ご挨拶」	転入・新任管理職	27～29
◇ 共済会からのお知らせ・NHK直営保養所のご案内		30～31
◇ NHK甲府旧友会規約		32～33
◇ 編集あとがき		34



坊ヶ峰放送所 現況 (2019.9.16)

## オリンピック放送雑感

甲府旧友会

会長 萩原幸造

今年の夏は梅雨空が長く梅雨明けと同時に猛暑日の連続でしたが、会員の皆さんお変わりありませんか。来年 2020 年は東京で 2 回目のオリンピックの年です。会員の中には前回 1964 年(昭和 39 年)の東京大会の中継放送に参加された方も居ますが、殆どの方はテレビ放送で楽しんだことと思います。私も入局 6 年目で、職場と家でオリンピック放送を楽しみました。

オリンピック放送で忘れられないのは女子バレーの決勝、日本対ソ連戦です。

「東洋の魔女」と言われた日本チームの主将は我が山梨出身の河西昌枝選手、順調に決勝に進み強敵ソ連との試合、実況担当は鈴木文弥アナウンサー。当時は 3 セット制で、セットカウント 1-1 で迎えた第 3 セット、日本リードでマッチポイントになった時のアナウンス「いよいよ金メダルポイントであります」その後ラリーが続き、その都度何回か「金メダルポイント」とアナウンスしたのが伝説のオリンピック中継となり今でも耳に残っている。日本中が金メダルに沸いた時の視聴率は史上最高の 85% という驚異的な数字でした。

その他体操競技で山下選手の跳馬、当時競技の難易度の最高が C ランク、その上だと「ウルトラ C」なる造語をアナウンスして定着させるなど、オリンピック放送では今も記憶に残る名場面、名アナウンスが多い。

一方、オリンピックの年は山間部でも鮮明にテレビが視聴出来るよう全国で中継放送所の建設ラッシュでした。甲府局は坊ヶ峰放送所からの電波を市川大門、下部、身延と受け継ぎその地域に放送するサテライト局が誕生。通称オリンピックサテと言われ当時は開局後一定期間を交替で有人監視する業務があり、末端の身延サテ局に先輩と 2 人で勤務、門前町の旅館に泊まりロープウェイで通勤した初めてのの中継放送所業務は懐かしい思い出です。

番組面ではオリンピックを契機に中継機材の開発が急ピッチで進められ陸上競技、水泳などに画期的なスローモーション VTR が導入され、マラソンにヘリコプターを使つての完全中継が実現され日本選手で唯一国立競技場に日の丸を掲揚した円谷選手のメダル獲得に歓声があがった。

前回のオリンピックから半世紀余り、放送技術の進歩には目覚ましいものがあります。来年の東京大会にはどんな中継機材・手法で放送されるか、こちらもまた楽しみです。いずれにしても私ども会員の皆さんは 2 回の東京オリンピック放送を楽しむことができる恵まれた世代です。

2020 年、元気で東京オリンピックを大いに楽しみましょう。